

柏崎が誇る長寿企業の実態

新潟産業大学 経済学部 文化経済学科2年 池嶋 菜央
指導教員 特任教授 今村 英明

1. 背景

日本は創業100年を超える長寿企業の数が世界一です。その日本で長寿企業の数と出現率(企業に占める比率)の両方が全国トップ5に入る地域は、京都府と新潟県だけです。**新潟は長寿企業県**なのです。

京都は「そだよね」感がありますが、新潟はやや意外な印象です。江戸時代に北前船の寄港地だったからとか、人口稠密地帯だったからとか色々な説があります。

しかし何ととっても最大のサプライズは、**「町」単位で長寿企業の出現率をみた場合、柏崎市西本町が全国ナンバー1**であることです。これは、意外に多くの柏崎市民がご存じありません。

2位は長野市長野で、善光寺門前寺町です。京都は、「くくり」が町ではなく「通り」単位で比較できないため省かれています。もちろん入れれば高ランクのはずです。

柏崎商工会議所から頂いた2020年版商工業者名簿をもとに、1921年(大正10年)以前創業の企業を数えてみました。他地域に本社がある企業の支店・出張所などは除外し、「地元企業」のみです。

柏崎市で地元長寿企業が最も多いのは、実は東本町(19社)です。西本町は僅差の2位(18社)です。3位は四谷と安田で各6社。つまり、東・西の本町が突出しているわけです。

出現率で見ると、やはり西本町は32%で断トツの1位です。西本町の地元企業の

3~4社に1社は、100年超の老舗ということになります。東本町は、最近企業が増えているため、出現率は17%です。それでも町内出現率ランキングでは全国10位前後に相当します。さらに東・西両本町を合わせると、出現率は22%となり、全国7位前後に位置します。

長寿企業は、地域に根ざしながら、地域を超えて羽ばたき、厳しい環境変化に耐え抜いて永年輝き続けてきました。**長寿企業は**いわば**「地域の宝物」**と言えます。そして柏崎は、宝物を永年保ってきた町なのです。

2. 目的

今年度から、新潟産業大学の地域理解ゼミナールでは、学生と一緒に地元の長寿企業を訪問し、聞き取り調査をさせて頂いています。今年度は6社を訪問しました。

目的は、ずばり地元の「宝物」、長寿企業の秘密を探ることです。

3. 活動方法

活動は以下のステップで行っています。

- (1) 世界や日本の長寿企業について、先行研究や一般的な理論などを学習する。
- (2) 柏崎市を中心にした周辺地域の長寿企業リストを元に、学生が訪問希望先を選ぶ。
- (3) 訪問希望先企業について、ホームページや図書館などで事前に概要を

調査し、ゼミ内で共有する

- (4) 受け入れて頂いた企業をゼミ全体で訪問し、学生から経営者の皆さんに取材させて頂く
- (5) 訪問取材の結果を元に、学生が学んだり考えたりした内容をゼミ内で発表する。さらに当ゼミの代表が学年合同発表会で発表する。(今回の**池嶋菜央さんの発表**は、その代表発表会での発表内容になります)。

4. 期待成果

この活動の**教育面での期待成果**は、以下の3点です。

- ① 学生が、身近な地域において100年以上も頑張っている企業があることを知り、地域企業に関心を持つ。
- ② 学生が、長寿企業は現在も生き抜くためにさまざまな努力と工夫を日々必死に重ねていることを知り、地域の(特に中小)企業経営のチャレンジと面白さを体感する
- ③ 長寿の秘密を学生自らが探る

この活動の**地域企業への還元**という面での**期待成果**は、次の通りです。

- ① 若い学生たちが関心を抱き、直接訪問し学ばせて頂いている、ということで、苦闘されている**地域企業の経営者や従業員の皆様方への間接的な「エール」**となれば・・・
- ② これをきっかけに、**学生の一人でも二人でも地域企業で働くことに関心**を抱いてくれば・・・

5. 今後の進め方と皆様へのお願い

これは一年限りではなく、**今後数年間継続**

していきます。

毎年、必ず学生が地元の長寿企業を数社訪問し、学習させていただきます。何せ日本一の長寿企業町です。訪問先はたくさんあります。とはいえ、コロナ禍の影響で残念ながら店仕舞いされた長寿企業も出てきています。

「こんな企業があるよ」とご紹介頂ければ、ぜひ検討させていただきますので、よろしくお声がけをお願いいたします。

学生たちが、柏崎長寿企業のどんな長寿の秘密を探り当ててるのか、とても楽しみです。

(注) 本文の一部に、柏崎日報(2021年8月19日付)掲載稿を使わせて頂きました。